

こんにちは 町会です

Nice Town Good People

私たちが暮らす中央区は、定住人口が順調に増え続け、まちはにぎわいと活気にあふれています。170を超える町会・自治会があり、祭りや町内の清掃、住人同士の親睦を深めるイベントの開催など、住みよい地域社会をつくるための活動は様々。「こんにちは町会です」は、そんな町会・自治会の活動を担う方々のまちへの思いをお伝えします。

今回ご紹介する町会

- 八丁堀三丁目西町会
- 人形町三丁目西町会
- 佃二丁目町会



「こんにちは町会です」の
バックナンバーはこちら▶



町会・自治会についてのお問合せは…

京橋地域 区民部地域振興課 TEL：03-3546-5337
日本橋地域 日本橋特別出張所 TEL：03-3666-4251
月島地域 月島特別出張所 TEL：03-3531-1151

下町文化が息づく八丁堀をもつと元気に

八丁堀三丁目西町会 会長 大作 元夫さん 副会長 下野 裕一さん

「皆が顔見知りになるような住みやすいまちにしていきたい」と話す大作会長と下野副会長。



大作会長



下野副会長

まちの声から生まれた羽根つき大会

八丁堀三丁目西町会の一年は「大人の羽根つき大会」から始まります。2024年で3回目となるこの大会は、1月28日に京華スクエア（旧京華小学校・幼稚園）で行われ、熱いバトルが繰り広げられました。「昔から中央区内の小学校では羽根つきが競技スポーツとして親しまれています」と教えてくれたのは大作会長。「羽根つきといえ



白熱した大人の羽根つき大会

ば京華小といわれたほどで、40、50代の方たちに聞くと自分たちが強かったと皆が口を揃える。そのような会話から大人たちも羽根つきをやって盛り上がるかと企画されたイベントです。チーム戦で皆さん本気です」と下野副会長は楽しそうに話します。

人と人をつなぐ町会活動

八丁堀三丁目西町会 はオフィスビルやマンションが立ち並びエリアでありながら、下町の風情も残るまちです。「私



八丁堀三丁目西町会神輿渡御の様子 (2018年山王祭)



大盛況だった八丁堀納涼大会の盆踊り

また、八丁堀三丁目西町会は近隣町会と協力し合うことが多く、その一つが京橋七の部連合町会が主催する八丁堀納涼大会です。2023年8月、京華スクエアで4年ぶりに開催。盆踊りに模擬店、さ



背中に「八丁堀」と入った町会の半てん

ります。力強く語

ちの誇りは、町内に神輿師と鳶頭がいることです」と大作会長。祭りで担がれる神輿は昭和31年に町内の神輿師により制作され、八丁堀三丁目西町会の財産でもあります。その神輿の出番となるのが隔年で6月に行われる山王祭（日枝神社例大祭）。金曜日に神幸祭が開催され、土曜日は神輿のほか、子どもの山車も出て、八丁堀を回る予定です。日曜日は午前8基の神輿がずらん通りを、午後からは京橋から日本橋まで中央通りを16基の神輿が渡御します。町の皆が期待している祭りです。「6年ぶりの開催となりますが、元の活気のある姿に戻したい」と大作会長は力強く語ります。

らには子ども縁日が楽しめることもあり大盛況でした。「地域住民以外の方も多く参加されるので、賑やかでいいことではあります。またに住む方々にこそ、より関わりを持ってもらいたいという思いも残りました」と話す下野副会長。「まずは誰にとっても身近な清掃や防災訓練から関わってもらい、町会活動に親しみを持ってもらいたい」と大作会長。八丁堀三丁目西町会は中央区主催のクリーンデーのほか、町内清掃や防災訓練にも積極的に取り組んでいます。「清掃や防災活動を核としつつ、山王祭や納涼大会といった行事の取り組みにも発展していければ嬉しいです。私たちはどこに行っても皆が知り合いでよく声を掛け合います。せっかく八丁堀に暮らしているのだから下町の良さを知ってもらいたいと思います」とお二人は期待を込めて語ってくれました。

所属する町会・自治会を調べる

中央区には、一流ブランド店や老舗、食のまちがある「京橋地域」、金融街や老舗百貨店などが連なる歴史ある「日本橋地域」、超高層マンションが立ち並び未来都市と下町情緒にあふれた路地が混在する「月島地域」の3つの地域

があります。そして、その中には143の町会と33の自治会が区域を分けて活動しています。お住いのご住所が所属する町会・自治会が分からないときは、「町会・自治会MAP」で確認してみてください。



▲町会・自治会MAP



「伝統をつなぐ」「人をつなぐ」その思いが原動力

「町会の活動を通して、一緒にまちの歴史をつくってほしい」と話す人形町三丁目西町会の皆さん。



小幡会長



岩崎副会長



遠藤会計部長

伝統を受け継ぎ、守り続けるまち

地下鉄・人形町駅に隣接する人形町三丁目。江戸時代、人形浄瑠璃が上演され、人形や衣装を制作・修理する人形師が住んでいたことが町名の由来です。長年まちの移り変わりを見てきた人形町三丁目西町会の小幡会長は、「この辺りには芳町（葎町）や浪花町（難波町）といった江戸からの町名が残っていましたが、昭和50年代に人形町に統一されました」と話します。「昔から繊維産業が盛んで、かつては呉服屋や卸問屋が数多くありました。今は減って、代わりにマンションが増えました」と語るのは岩崎副会長。

遠藤会計部長は、「人形町は伝統行事や文化をしっかりと守っているまち」だと話します。「『一夜飾り』や『くもち』を避ける※1といった慣習にもこだわっています。面倒だといってやめてしまえば伝統はすぐに途切れてしまいますから」（岩崎副会長）。

まちの行事を通して、子どもたちに伝えたい

行事の中で特に力を入れているのがお祭り。青年部が中心となって準備した「納涼人三西子ども祭り」は、屋台や水遊びプール、じゃんけん大会など子どもたちが楽しめる催しが盛りだくさん。ユニークなのは、道路にチョークでらくがきができるコーナーで、普段はなかなかできない体験が大盛況に！「イベントで大切なのは運営側も楽しむこと。楽しければまた次も皆さん手伝ってくれます」と遠藤会計部長は成功の秘訣を話します。



子ども祭り名物のらくがきコーナー

また、コロナ禍の影響で5年ぶりの開催となったのは榎森神社の例大祭。開催を決めた背景には切実な思いがあります。「前回の開催から期間が空いてしまっているので、このままだと小学生のうちに一度も例大祭を経験しない子が出てしまう」（遠藤会計部長）。「私立中学校への進学などで地域と離れがちになる前に、子どもたちは大神輿の迫力



榎森神社の大神輿は御年92歳。重さは350貫（約1.4トン）!

人形町三丁目西町会 会長 小幡純さん
副会長 岩崎達三さん
会計部長 遠藤正幸さん

や、「御霊入れ」「御霊返し」※2の厳かさなど、自分が住むまちの歴史に触れることができました。



旧町名の「葎」の文字が入った伝統の半てん

その他にも人形町三丁目西町会では生活必需品や防災用品などを家庭ごとに配布し、その際に声掛けをして回るなど、住民が安心して生活できるような取り組みを行っています。「子どもはすぐに友達がつくれるけれど、新しく移り住んだお父さん・お母さんたちが地域でつながりをつくるのは大変なこと。時間がかかっても、町会の行事を通して地域のつながりを育てていきたい」と岩崎副会長。小幡会長は「町会は、いわば地域の共同組織。共同体の意識が薄れつつある中で、今後その存在価値をいかに高めていくかが大切」だと語ります。まちと人をつなぐパイプ役として奮闘する町会役員の皆さんの真摯な想いに心を強く揺さぶられました。



企業の協力により、トイレットロールをクリスマスプレゼントとして配布

※1「一夜飾り」は大晦日に正月の飾りつけをすること。
※2「くもち」は12月29日に餅をつくと、いずれも縁起が悪いとされる。神社の神様をお神輿に移すのが「御霊入れ」。神社に戻るのが「御霊返し」。

インターネットでまちの情報を知る

中央区ホームページでは、町会・自治会の区域や主な活動等を紹介している他、町会・自治会に関する情報を発信するためのSNS(中央区町会・自治会ネット)の情報も見ることができます。また、独自でSNSを立ち上げ、まちのイベント情報を発信している町会・自治会もあります。ぜひ、SNSで町会名・自治会を検索してみてください。



中央区ホームページ内町会・自治会ページ



安全・安心に暮らせる絆のあるまちづくり

佃二丁目町会 会長 田野孝章さん 副会長 小川建司さん

「新型コロナの収束を迎え、楽しく参加できる町会行事を開催したい」と話す田野会長と小川副会長



田野会長



小川副会長

町内パトロールで浸透する防犯意識

「結婚して、妻の実家のある佃で暮らすようになりまして。初めて目にした長屋、河岸へ仕事に急ぐ江戸っ子気質の若衆たち、面倒見のいいご近所さん…あれから50年近く過ぎました。マンションが増え、まちの様相も変わりましたが、佃ならではの下の町の風情は大切に育んでいきたいですね」と話すのは佃二丁目町会の田野会長です。

「だれがどこに住んでいるのか見当がついていない頃はコミュニケーションもとりにやすかったと思います。今はいろいろな価値観があります。その中で町会が果たす役割も多様化が求められると思います」と話すのは小川副会長です。

暮らしやすく働きやすいまちにするために、これまで様々な活動を町会役員が中心になって進めて

町内パトロールで振り込め詐欺への注意を呼びかけ

暮らしやすい働きやすいまちにするために、これまで様々な活動を町会役員が中心になって進めて

きました。町内パトロールもその一つ。毎月1回町会役員会を開く前に1時間ほど、警察と連携して行っています。高齢者が多く居住する地域を中心に回り、警察で用意した振り込め詐欺防止のチラシを玄関のポストに入れるなど、きめ細かくパトロールしています。

そうした防犯意識の浸透が功を奏したことがありました。「90歳を過ぎた一人暮らしの男性のところにも振り込め詐欺の電話がありました。ご本人も怪しいと思ったのでしよう。町会役員を務めた人に相談して事なきを得ることができました」（小川副会長）。「地域に見守ってくれる人が増えれば、より安全で安心なまちづくりにつながると思えます」（田野会長）。

まちが盛り上がる多様なイベント

2023年8月には住吉神社の例大祭が5年ぶりに開催されました。佃二丁目と三丁目の合同による新佃祭礼委員会の町神輿も三日間に渡って渡御。その重さに担ぎ手は10分ともたないといわれる神輿は迫力満点で、担ぎ手に水がザブザブかけられる様子は圧巻。山車を引く子どもたちの声も弾みまじり。「普段は町会行事にあまり関心



佃二丁目・三丁目合同による新佃の町神輿が渡御

行事にあまり関心がない。お祭りに参加していただけの方は多くいます。それがきっかけで、地域の交流がより深まればと思います」（田野会長）。

例年2月に行われる餅つき大会もまちの人たちが楽しみにしているイベントの一つ。お相撲さんが参加して餅をつき、つきたての餅はその場でお雑煮やきな粉餅にして食べることもできます。



祭り気分が盛り上がる「新佃」の半てん



町内でも参加するお相撲さん餅つき大会

「町会員は初回無料です。つきたての餅はやはり美味しいですね。子どもたちも大喜びです」（小川副会長）。

二丁目町会では、防災訓練やバス旅行、町内清掃などの活動を行っています。「今後はマンションにお住まいの方々と連携をとって町会活動を広げていきたいですね。町会行事に参加したいという方はいつでも大歓迎です」（田野会長）。佃二丁目町会ならではの、ふれあいのあるまちづくりがこれからも続きます。

まちかどでまちの情報を知る

まちかどの掲示板には、区政情報だけでなく、みこしの担ぎ手募集や餅つき大会の日などに、四季折々の情報があふれています。ちょっと立ち止まってみると、あなたがときめく出会いがあるかも。令和元年、台風15号による千葉県の大規模停電の際に通信障害が発生し、インターネットなどを利用した連絡・情報取得手段が使用できない中、まちの掲示板がオフラインでも活用できる連絡手段として活躍した事例もあります。

大規模停電の際に通信障害が発生し、インターネットなどを利用した連絡・情報取得手段が使用できない中、まちの掲示板がオフラインでも活用できる連絡手段として活躍した事例もあります。

